

## 校長室だより(No.3)

令和3年4月27日  
丹波市立黒井小学校長  
谷口 千尋

自然学校では、子どもたちに豊かな人間性、社会性、自律性などをはぐくみ、自然体験活動や社会体験活動などの機会を設けることとしています。阪神・淡路大震災からの創造的復興を遂げていく過程で、兵庫型「体験教育」をはじめとして、子どもたちが困難にくじけずたくましく生きる力をはぐくむ教育を推進してきました。小学校の「環境体験事業」、「自然学校」、中学校の「わくわくオーケストラ教室」、「トライやる・ウィーク」など、子どもたちが「命の大切さ」や「生きる喜び」を実感できる教育活動や、環境学習・教育などを発達段階に応じて展開しています。

4月25日から5月11日まで、兵庫県に緊急事態宣言が出されました。それに伴い、5月20日から予定していた春日地域の自然学校も延期となりました。5月11日に緊急事態宣言が終わったとしても、2週間程度は、宿泊を伴う行事を安全に行うことは難しいという判断です。昨年度も新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため2日間(宿泊なし)で行いました。後にも書きますが、「自然」学校という呼び名ではありますが、プログラムの中には、様々な「体験」を組んでいます。「社会体験」「文化体験」「自然体験」「身体を使った体験」「心の体験」などです。今年は、何とか多くの活動が実施できますことを願っています。

自然学校では、大きく分けて、5種類の体験ができるように計画されています。

1つ目は、「自然体験」です。丹波少年自然の家での散策・グリーンテーリング(山沿いの植物観察を自然の家施設内で行うもの)などがこれにあたります。ふだんからよく知っている丹波(山)の自然ですが、草木の名前や葉の形、花卉の数となると大人でも不確かなものです。時間を使ってしっかりふれてほしいと思います。

2つ目は、「文化体験」です。野外炊事などで道具を使ったり、マッチやライターなどを使わないで火をおこす体験をしたりすることです。海の水から塩を作る塩づくりを見学するなど、昔からの知恵や技術を学ぶこともあります。

3つ目は、自然学校そのものですが、集団でのルールを守ったり班や学校の仲間で協力して活動したりするいわゆる「社会体験」です。この集団生活での学びは大きいものと考えます。中学校に向けて、他の学校とともにしっかり身に付けてほしいところです。

4つ目は、「身体を使った体験」です。怪我や病気に気をつけて生活することや、カヌー・カヤック体験(円山川公苑)などがこれにあたります。自分の身体や艇



令和2年度自然学校

を自分でコントロールする大切な体験です。

最後が「心の体験」です。自然学校を通して、がまんをしたり、失敗して困ったり、成功して喜んだり、感動したりすることです。何よりこれを友達とともに体験することが大切だと思います。